

## 炭素削減が利益を生む時代

いま、二酸化炭素を減らすということや言うと同じ状況が起っています。イギリスのNGOが、世界中の企業や自治体の二酸化炭素を減らす事例を集めて発表しました。去年、七十四社がでていて、二六億ドル利益が上がっているんです。コストではなく利益が上がっている。日本からも十社出ていますが、たくさん企業が二酸化炭素を減らして利益を上げています。「カーボン・ダウン」(炭素削減)、「プロフィット・アゲイン」(利益増加)というのがこのレポートのタイトルです。炭素を減らすことは儲かる時代になっているということです。これもみんながやりだすと価値が減ってきます。ですから、皆さんが早く考えていただければと思います。大事なことは、二酸化炭素を減らす取り組みを「コスト」ではなくて「投資」として位置づけるということです。また大丈夫だろう、みんなやっていると待っていていいことはありません。メリットはたくさんあるし、リスクはどんどん大きくなっていく。何もやらないときの「コスト」やリスクは何かやったらとさきよりも大きくなってきます。

## 広がる「幸せ」の問い直し

少し考え方の話をしようと思います。いま面白い動きが出てきていて、欧米で経済学者が「幸せ」をタイトルにした本や論文を結構書くようになってきました。これまで、経済学者が「幸せ」を語るとは考えられていなかった。

どういふことかと言うと、アメリカではGDPはどんどん伸びてきている。では本当に幸せになったのか？という問い直しが広がっています。GDPというのはお金が動けばすべてカウントされます。例えば家庭内暴力で怪我をして病院に担ぎ込まれて、お医者さんが動いて薬が動く。これはすべてお金になりますから、家庭内暴力はGDPを増やします。公害も環境破壊も交通事故も同じです。

私たちの幸せに関係しているか関係していないかには一切かわりなく、物が動きお金が動けばGDPは増えます。それはおかしいんじゃないか、GDPで国の成長を測るのはおかしいんじゃないかという声が上がってきています。もっとも考えだと思えます。ですから、GDPから私たちの幸せにつながるいいものは引きましょう、そしていまGDPにカウントされて

## 「もったいない」からビジネス誕生

少し一般的な話をしましょう。つい最近、ニールセンという調査会社が世界の十何カ国で温暖化についての調査をしました。アメリカで調査をしたとき、十二%が温暖化」という言葉を聞いたことも見たこともないやと答えていました。これは世界最高の、いや最低かもしれませんが、値です。日本では、九十六%の人が温暖化に関心がある、心配だと答えています。そして、普段の生活で「もったいない」と思う人がとても多い。「この「もったいない」という思いを今抱えつつ私たちは、でもしょうがないなと思いつつ私たちが、プラスチック使つと



かやっていることが結構あるんですね。もし、これからビジネスを考えている人がいれば、私たちのどつしても抱いてしまつ「もったいない」に答えられる商品やサービスがこれから絶対売れます。

面白い取り組みがあるのでご紹介しますが、これは私もそうですが、外に出かけるときペットボトルは使いたくない。買いたくない。なので、家から水筒をもっていく人が増えています。マイ箸は昔から流行っていますが、こちらはマイ水筒です。水筒を持っていくけど、出先で飲み終わるとなくなってしまうので、やっぱりペットボトルを買わなければいけない。それはいやだしもったいない。そこで、そういう人たち向けに、マイボトルを持っていくと普通よりも安く「コーヒ」とかお茶を入れてくれるカフェとかお店が出てきています。そこに自分のボトルを持っていくと、安くお茶やコーヒを入れてもらえる。これは、マイボトルを上手に販売していくやり方でしょう。私もそう思うことがよくありますが、ペットボトルは買いたくない、でも喉は渴いている、というその思いに答えてくれる、こういうタイプの商品サービスはこれから絶対に流行ります。

考え方が広がってきました。

いけないけど私たちの幸せにつながっているものは加えましょう。例えば家事や育児、子どもに絵本を読んであげる。これはすくく大きな幸せを作り出している行為だと思います。でも、お金は動きません、皆さんの多くがきつとかかわつてらっしゃるボランティア活動もそうです。幸せを作り出している大事な活動だけがお金が動かない限りGDPにはひとつも影響しません。

このように、GDPに家庭やボランティア活動といった幸せを作り出しているものを入れて、犯罪、公害、家庭の崩壊など、幸せにつながるいいものを引こうと考えると、新しい指標ができました。GPIという指標です。世界で日本を含めて十数カ国でこの指標ができて計算がされています。傾向はどごもだいたい体同じです。日本もそうです。GDPはみんな伸びている。でもGPIは一九七〇年くらいから横ばいとか下がっています。つまり、GDPは増えているけど本当の幸せは増えていない。もしくは減っている。これは皆さんの実感とも近いんじゃないかと思えます。GDPは増えているけど、どんどん忙しくなっているし、せんせん子どもたちが楽しそうじゃないし、これって本当に幸せなのか。そういう問い直しが今広がって、そこで面白い

